



いちいの会 だより

平成29年
43号

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://www.ichinokai.com>

ICHIINOKAI VOL. 43



平成28年11月6日 くすのき祭 ほたん会の皆様と



新年あけまして

おめでとうございます。

社会福祉法人いちいの会 総合施設長 清本健二郎

関係機関の皆様、地域の皆様、家族会の皆様のご支援、ご指導を頂き「くすのき苑、ワークショップくすのき、グループホームかえで、中核地域生活支援センターのだネット、相談支援センターいちいの木」の各事業所も新しい年を迎えることができましたことに感謝申し上げます。

現在、社会福祉法人制度改革への対応に追われているところではありますが、いちいの会では、従来通り「利用者第一」を理念の一つとし、「利用者の笑顔を笑顔でつくる」ために、役職員一同一人ひとりが連携しながら、チーム力を発揮し取り組んでまいります。

法人内の事業所間の連携はもちろんの事、関係機関との連携を大切にし、ニーズに対し丁寧に応えることのできる様、地域に根差した事業を進めてまいります。

また新年は、気持ちを新たにできる時でもあります。皆様方と共に、新しい気持ちで法人の使命を果たしていく所存です。本年もより一層のご支援を宜しくお願いすると共に、本年が更に良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

●目次●

- ◇施設長より …………… 1
- ◇新年を迎えて
法人全体会 …………… 2
- ◇旅行だより
職員日記 …………… 3
- ◇くすのき祭 …………… 5
- ◇とびくす
行事予定・販売会予定 …… 6

新年あけましておめでとうございます。中核センターの事業に対しましてのご協力・ご支援に厚く御礼申し上げます。

11月6日の「くすのき祭」が終わり、一息つく間もなく「もう冬？」と思わせた11月24日の雪…。驚くと同時に当日の予定が頭を過りました。朝8時半には相談者宅を訪問、9時には病院に行き、9時半から市役所で年金相談。午後は学校で会議。夕方はAさんに弁当を届ける約束がある。自家用車から電車通勤に切り替え、早めの出勤をし、公用車のハンドルを握りました。「約束を守る」どんな小さな約束も守ることから信頼は得られると、相談支援事業に携わり、より強く感じています。ある日「子どもに食べさせるものがありません…。助けてください。」の電話に「わかりました大丈夫です。何とかしますからね。」と答え、フードバンクに相談。とりあえずの食料を急ぎ持参する。子どもが餓えている、それだけは何とかして回避したい。生命に係わる。今の日本ではひとり親家庭の貧困率は高く、年収200万円以下が60%と言われている。普段から子どもと過ごす時間は少なく、食事を一緒に出来ないという問題が深刻化している。いつも一人で食事をしている、給食を食べに学校に来ている子もいる。みんなで暖かい食事ができる場所を作ってあげたいとの気持ちから、野田にも「こども食堂 おかわり」がオープンすることになりました。(2月11日より毎月第2土曜日午前11時から15時・岩木小そば) ボランティア募集と食材の提供のお願いがチラシに書かれています。先日「お米があるけど役立ててもらえる？」と旧知のWさんが30kgの米を持参して下さい、早速「こども食堂 おかわり」に届けました。今年の抱負として、中核センターでは地域みんなで子どもの未来を応援するための活動に関わって行きます。



法人全体会

くすのき苑 第2支援係長 金 隆史

社会福祉法人いちいの会は今年度で16年目を迎えました。私が入職した時には入所施設のみでしたが、今では5つの事業所を抱える法人となり、そこで働く職員も年々増えてきました。そのような中、10月3日に今年度2度目の法人全体会を開催しました。

法人の全事業所より職員が集まる機会はそうそう多くはありません。初めて顔を合わす職員も増えてきており、年々、この時間が大変貴重なものとなってきているように感じます。

例年、法人全体会の中では、権利擁護に関する研修会を行っています。今年度も1回目の全体会の際には、弁護士佐久間水月先生を招き、権利擁護についての講演をしていただきました。今回は、法人の職員が講師役を務め、「アンガーマネジメントについて」の内容で研修を行いました。私たちは、利用者の方が生活をして行く中でサポートをする立場にあります。良い支援を提供するためには、身体面で健康であることが大切ですが、メンタル面のコンディションを整えることが非常に大切であるということに改めて感じました。



私たちの仕事は決して1人では出来ません。

その中で自分の「価値観を押し付ける」のではなく、互いに「価値観を認め合う」ことが良い関係性であり、それが利用者支援にも繋がることを再確認した機会となりました。

ワークショップくすのき 男子旅・女子旅



ワークショップくすのき 主任生活支援員 国分 雪江

今年度は、初めての試みで「男子旅・女子旅」と男女に分かれての1泊旅行でした。

男子旅は、9月15日～16日で横浜方面へ行ってきました。

1日目のよこはま動物園ズーラシアでは、園内の広さに驚きましたが、たくさんの動物に会うことができました。2日目の新横浜ラーメン博物館では、それぞれ好みのラーメン2種類を食べ比べ堪能してきました。特に思い出

深いことは、宿泊先の宴会です。カラオケ大会では歌の得意な方も多く、テンションが上がり、肩を組んでみんなで歌い楽しみました。

女子旅は、10月13日～14日で茨城方面へ行ってきました。

1日目のアクアワールド茨城県大洗水族館では、たくさんの海の生き物に会い、ふれあいコーナーではドキドキしながらヒトデやウニなどを触ってきました。2日目のめんたいパークでは、工場見学の他にも無料で明太子を食べたり、お土産に明太子チップスまでいただき皆さん嬉しそうにしていました。

中でも宿泊先のホテルでは、全室オーシャンビューで部屋からの眺めもよく、朝食・夕食共に新鮮な海の幸満載で、お腹も心も満たされました。

男女どちらの旅も天気にも恵まれ、それぞれにリフレッシュできた楽しい旅となりました。



職員日記

ワークショップくすのき 生活支援員 大谷 晴香

皆さんの家庭ではこの秋冬、“野菜の価格高騰”という言葉に苦しめられていませんか？スーパーの野菜売り場に行くと葉物野菜を中心に品薄だったり、陳列されていても小さかったり、値段が通常の1.5倍から2倍ほどになっていましたよね。家計には大打撃！しかし野菜を摂らないわけにもいかず、我が家では比較的価格の安定している“豆苗”を買う機会が増えました。豆苗の良いところは扱いやすさ。生でも加熱してもおいしく食べられるのでよく食卓に並びます。そして更に魅力的なところ…。“再生”できるんです。

元々、植物を育てることが不得意な私ですが、野菜の価格高騰を受け、豆苗の再生に挑戦してみました。といっても、豆苗を食べきった後、残った豆と根の部分を残しておき、水を張ったタッパーに入れておくだけです…。水に入れて1～2日は切り口が乾燥し、果たして本当に生えてくるのだろうか…と不安になる状態ですが、気が付くと、にょきにょきと伸びていきます。その様がとても気持ちいいんです。毎朝、「今日も伸びている！」とにんまりしながら水を換え、ある程度伸びたら収穫し夕飯のおかず。そしてまたタッパーへ。何て口ハスなんでしょう！“苦手”と思っていたことが、いつかマイブームになっています。家庭菜園には程遠いですが、他にも簡単に育てられる野菜に挑戦していければ、と思っています。



第16回 くすのき祭



実行委員長 沼田 浩史

平成 28 年 11 月 6 日(日)「第 16 回くすのき祭」が開催されました。祭りの当日の天気を心配していましたが、晴天に恵まれ無事に開催する事が出来ました。晴れたこともあり、総勢 500 名を超える方々に来苑していただきました。

今年も地域の方々のご協力の下、様々な方に参加していただきました。関宿郷土民謡保存会とぼたんの会とワークショップ利用者による笑顔溢れる踊り、この日のために練習してくれた木間ヶ瀬小学校による元気いっぱいのリコーダー演奏、関宿高校の吹奏楽部によるメドレー演奏、東京理科大和太鼓サークル「樹」による迫力のある和太鼓の演奏でステージを盛り上げてくれました。ステージ以外では今年もゆるきゃらグランプリに参加している関宿のマスコット「やど助」君とくすのき苑から生まれた「えだまめマン」のコラボレーションが実現しました。小さなお子さんも一緒に記念写真を撮ったり握手をしたりして、苑内を賑やかにしてくれました。そして、くすのき苑からは毎日頑張っている練習をしてきた利用者のダンス発表、男性職員 3 名による今年流行しているパーフェクトな職員発表、豪華賞品が盛りだくさんの大抽選会と、楽しく最後までどきどきのお祭になりました。

ボランティアに来ていただいた民生委員の方を始め、地域の多くの方々のお力添えがあり、またこのお祭りの準備の為に力を貸してくださった方々が居てくれたからこそ大成功で終わることが出来たと思っています。

実行委員長を務めたことにより、改めて周りの方々からの支えと力が大切と感じました。この経験を活かして、一人の小さな力ではありますが皆様のお力になればと思います。

くすのき祭に関わった全ての方々に心から感謝申し上げます。



9月26日～27日 1泊旅行 栃木方面

1 日目は那珂川を見ながら手打ちの蕎麦を堪能しました。森林に囲まれ川の流れる音を聞きながらゆっくりと楽しみました。2 日目は那珂川水遊園に行き、亀やドクターフィッシュに触れました。トンネルの内側から優雅に泳ぐ巨大魚に皆で目を輝かせました。

佐藤 由美



11月17日 日帰り旅行 埼玉 東武動物公園

「虎を見たい」との願いを叶えるため東武動物公園に行ってきました。お目当てのホワイトタイガーは私達が来るとガラス前まで来てくれ迫力満点でした。動物園の後は温泉に行き、炭酸温泉でゆっくりと体の疲れを取りました。2 人でのんびり楽しんだ 1 日でした。

齋藤 貴子



11月21日 日帰り旅行 大洗方面

大洗まで日帰り旅行に行ってきました。ホテルでの美味しいランチと冬の海という、普段はなかなか見ることができない景色と美味しいご飯を堪能してきました。束の間の時間でしたが、利用者さんも職員もとてもリフレッシュできた旅行でした。

増淵 歩美



11月28日～29日 1泊旅行 木更津、成田方面

1 日目は木更津方面で新鮮な魚介類を堪能し、その後は温泉を満喫しました。2 日目は成田方面で航空機の博物館へ行き、その後房総の村で大昔の家屋を見ながらのんびり散策をしました。皆さんニコニコといい笑顔で充実した旅行でした。

大橋 宣彦



11月2日 手をつなぐスポーツのつどい

11 月 2 日に第 43 回手をつなぐスポーツのつどいに行って参りました。空はあいにくの曇り空で肌寒い天候でしたが、くすのき苑の利用者の方はもちろん、他施設の利用者の方々の元気でひたむきな姿を見て、今後の支援に向けての気持ちを新たにすることができました。

森 康滋



8月19日 花火大会

8 月 19 日に夏の夜、花火大会を行いました。花火に火が付くと暗い中庭がパッと明るくなり、そこには利用者の方々の笑顔が沢山ありました。ほんの一時でしたが、わいわいと賑やかに過ごし良い思い出になった時間でした。

中村 広幸



新任職員紹介



8月1日より、くすのき苑の生活支援員として働いております大塚です。

全くの未経験ではありますが、利用者に寄り添った支援をしていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

生活支援員 大塚 信行



青年学級

毎月1回、野田市内で開催される青年学級に参加しています。ボーリング、カラオケ、調理実習等、他の参加者やボランティアの方々とお話をしながら楽しく参加しています。苑では見る事の出来ない姿も見る事が出来るので、職員も楽しく参加しています。



ビリーブレク



皆で昼食レクに出発！場所は越谷市の「県民健康福祉村」。広い公園でウキウキ歩いてみんなで美味しくお弁当。日頃の頑張りあって、楽しい美味しいハイキング。ビリーブ班に笑顔の想い出増えました。また行こう！

行事予定

1月

冬期帰省 帰苑日 1/4
新年会

2月

日帰り旅行
手をつなぐ作品展

3月

健康診断
理事会



● 編集後記 ●

幼いころから大好きだったこたつが、今年の冬も大活躍。1度入るとなかなか出られなくなってしまうのですが、自然と家族そろってもぐり込んでおり、悪いことばかりではないと言い聞かせながら、今日もお世話になっています。
(伊藤)

新年あけましておめでとうございます。
小さいころは楽しみにしていたお年玉ですが、今ではすっかりあげる側になってしまいました。気付けば今年で25歳、実感がまだ湧いていないこの頃です。
(中山)

いちいの会だより VOL.43

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑
〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL:04-7120-6667 FAX:04-7120-6668

発行人 総合施設長 清本 健二郎

編集 広報委員会 中山・伊藤・中嶋

発行日 平成29年1月1日

E-mail kusunokien@nifty.com

H P URL:http://www.ichiinokai.com/